


# 御前山ビオトープ通信

平成21年9月30日

第24号

編集： NPO「美しい田園21」 清野   
 メール：[denen21@hb.tp1.jp](mailto:denen21@hb.tp1.jp)  
 ホームページ：<http://w01.tp1.jp/~a071771011/>

## 目次

- 1 ノーブルキッズの田植え
- 2 生き物生育状況
- 3 第2回育成活動ほか秋以降の作業

## 【案内図】



## 1 ノーブルキッズの田植え

6月6日（土）桧山集落の田んぼを使って、ノーブルキッズを迎えて田植えを行いました。数日前から桧山集落、ノーブルホームの職員などが、草刈、小川の清掃、テント設営など入念に準備を行ってきました。

ところが、天気予報では完全に雨とのこと。前日電話したところ皆さん気合が入っていて雨天決行を確認しました。その強い決意に答えてくれたのか当日は天気予報を見事に覆して雨が上がり日中には日差しがあるほどになりました。

看板、幟、誘導員配置、テント、手洗い水タンク、仮設トイレなどに、参加者はそろいの緑色Tシャツ。さすがに住宅ホーム会社はイベントにも慣れているのか若い職員も多く、運営も手際よくなかなかのものです。

10時頃までに親子参加者約80名が三々五々に自家用車で到着、中にはかなり遠くからの参加者もありました。ノーブルスタッフが約20名、桧山集落、地元の子供たち等が約20名と全体では約120名ほどが集合しました。桧山集落に外部からこれほどたくさんの人が訪れるのはめったにないことかもしれません。

開会の挨拶や指導員（桧山集落の婦人）の紹介が行われた後、さっそく田植えが始まりました。



家族単位の田植え風景

小さな子供も多く、ほとんどは親も始めてとあって、なかなか動き出しませんが、田んぼごとに全体が4班に分かれておそるおそる田んぼに入りはじめます。

家族ごとに自由に出来るようにと、あらかじめ線を引いてあったのですが、水が濁るとわからなくなり、また、ばらばらに作業が進むと植え方や場所にも大きな差が出てきます。

トラ刈りならぬトラ植えの場所も出てきて指導員役の農家の皆さんは補植作業が大変です。

田植えは稲作文化の代表的な行事で、やはり皆







小さな子供も一生懸命

が一斉に横に並んで行うのが合理的なようですね。私は何度も田植えイベントを経験してきましたが、実はこのような田植え風景を見るのは初めてでした。でも作業効率がよければいいというものではありません。子供たちは両親と一緒に、泥だらけになっても慣れてくると大はしゃぎで楽しそうです。人数が多いので一時間ほどで終了しました。

手洗いの水をタンクに用意してあったのですが、暑くなってきたこともあり、子供たちは川の中に入って水遊びをしながら手足を洗いました。

その後、皆で記念撮影です。「田んぼの学校」の旗が家族写真に引っ張りタコで好評でした。山郷に子供の声が響き渡る一日で、何とか天気にも恵まれ、事故もなく無事終了して何よりでした。

## 2 生き物生育状況：9月末

9月時点での移植植物や田んぼの状況を報告します。

移植した植物は5月の育成活動で選伐除草など手

を入れた効果があって、順調に生育しています。

フタバアオイやイヌショウマはもちろんですが、春に心配したアギナシやナガエミクリは他の野草に負けず元気に成長しています。農作物のように手をかけすぎるのは問題ですが、少しでも手助けすることが大切のようで、ひと時は絶滅の危機的な事態のこともありましたが、見事に回復して我々の期待に答えてくれました。山野草は、人間が想像する以上にたくましくもあるのです。

ただ、驚いたのは猪の「ぬた場」となってタコノアシの湿地が無茶苦茶に荒らされ、根っこごと掘り返されていました。



イッパに荒らされた湿地

そんな中電柵の効果は偉大なものですね。タコノアシ湿地に隣接した古代米は線一本で守られ、全く被害がなく順調に生育し穂がたれてきました。

チップ舗装した遊歩道などもかなり掘り返されていましたが、考えてみれば雑草防除をしてくれたとも考えられます。

## 3 秋以降のイベント・行事など

- 10月17日(土) : ノーブルキッズの稲刈り
- 10月22日(木) : ビオトープ古代米稲刈り
- 11月5日(木) : 脱穀・収穫祭、間伐作業

今年から、茨城県森林湖沼環境税を活用した「元気な森林づくり」事業を活用して水源林の間伐作業や遊歩道整備事業に新たに着手することになりました。

22年2月 遊歩道整備

3～4月 ダム湛水敷地から希少種移植作業



ガエミクリの実



少し色づいてきた知ノアジ



黒米